

科目名	農業と環境	単位数	3	学科・学年・学級	森林環境科 1年1組
学 習 の 到達目標	1 体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 2 農業と環境に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 3 基礎的な知識と技術が農業の各分野で活用できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。			教科書・副教材等	農業と環境（実教出版）
評 価					
観 点	評 価 規 準				方 法
知識・技術	・環境の保全や農業生物の育成など環境と農業に関する基礎的な知識を身に付け、環境と人間生活の関係や農業生物の特性と栽培環境の関係を理解している。				・定期考査 ・授業で使用するプリント ・レポート
思考・判断・表現	・環境や農業に関する課題を科学的にとらえて合理的に解決する実践的な能力を身に付ける。 ・調査結果や栽培の観察・考察などを正確に表現している。				・発表の内容や仕方 ・定期考査の論述問題
主体的に学習に取り組む態度	・環境や農業に関する課題を科学的にとらえて合理的に解決しようとする実践的な態度を身に付ける。				・実習態度 ・レポート ・発表の内容や仕方
学 習 計 画					
	学 習 内 容		学 習 の ね ら い		考査
1 学 期	1 環境と人間生活 （1）森林、河川、耕地の生態系 ア 生態系のしくみ イ 森林の生態系 （2）地球環境と人間生活 ア 森林機能 イ 環境と調和した農業 2 農業生物の育成 （1）イネの栽培と利用		・地域環境の観察や統計資料及び地球環境に関する衛星情報や統計資料などによる具体的な事例を通して、生態系が人間社会に深く関わっていることを理解する。 ・森林、農耕地、都市などの生態系の特徴を理解するとともに、これらの生態系が人間の生活や経済活動によってどのような影響を受けているか耕地や農村、都市の生態系とを対比して理解する。 ・作物などの農業生物の生育過程などの基礎的な知識を習得し、農業生物の生理、生態的な特性と規則性について理解する。		中間・期末
2 学 期	3 農業生物の育成 （1）イネの栽培と利用 （2）緑化用草花の栽培と利用 4 環境の保全、創造 （1）森林と環境保全 （2）緑地と景観創造 ア 農村の環境整備 イ 河川の環境整備 ウ 都市環境の創造		・森林資源の管理方法、森林保護の方法などの学習を通して、森林の環境保全機能に関する基礎的な知識と技術を習得する。 ・農村や水辺、都市の緑地による景観の維持と創造に関する知識と技術を習得し、農村の環境整備のあり方を考える。 ・河川環境を理解し、自然に近い川づくりの考え方を理解する。		中間・期末
3 学 期	5 環境学習と学校農業クラブ活動 （1）プロジェクト学習 （2）学校農業クラブ活動		・「農業」におけるプロジェクト学習は、生徒自身が、課題設定、計画、実施、反省、評価することを理解する。 ・教科「農業」の目標の達成を目指すとともに、科学性、社会性、指導性の育成を目標にしていることを理解する。		学年末

科目名	総合実習	単位数	3	学科・学年・学級	森林環境科 1年1組	
学 習 の 到達目標	1 農業を総合的に捉え体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 2 農業に関する総合的な課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 3 農業の総合的な経営や管理につながる知識や技術が身に付くよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。			教科書・副教材等	なし	
評 価 規 準						
観 点	評 価 規 準				方 法	
知識・技術	・農業生物や林産物の育成、生産物の有効利用など、農林業に関する基礎的な知識を身に付けている。 ・各専攻分野における技術が身に付いている。				・発表の内容や仕方 ・作業の精度 ・農業鑑定競技	
思考・判断・表現	・農林業の特性と農林産物の栽培管理方法について多面的に考察し、栽培方法や加工技術などの基礎的な知識・技術を活用した課題解決に向けての実践的な能力が身に付いている。 ・プロジェクト活動の記録や考察が正確に表現できている。				・実習態度 ・実習記録簿	
主体的に学習に取り組む態度	・農作物や林産物の育成から加工品の開発など、農林業を体系的に捉え、意欲的に取り組む態度を身に付けている。 ・班員と協力して作業を行うことができる。				・実習態度 ・プロジェクト活動	
学 習 計 画						
	学 習 内 容				学 習 の ね ら い	考 査
1 学 期	○園芸 1 夏野菜・草花の栽培 ○育林 1 さし木 2 苗畑管理 3 林地管理 ○林産加工 1 製造 ○農業クラブ活動 1 プロジェクト活動 2 意見発表 3 農業鑑定競技				・栽培に必要な技術と作業内容の概要を学ぶ。 ・さし木の作業手順とさし木後の育苗について学習し、さし木用土と発根の関係について調査・観察を行う。 ・種子繁殖と栄養繁殖の違いについて学習する。 ・帯のこ盤の種類や構造について学習し、製材機械を安全に取り扱う知識・技術を身に付ける。 ・製材の際に出てくるおがくずの有効利用について学習する。 ・農業鑑定競技実施基準の中から、林業に関する実物鑑定を行う。 ・栽培・管理をととしてプロジェクト活動を行う。 ・日頃の生活の中で関心を持った分野について自分の意見をまとめる。	実施なし
2 学 期	○園芸 1 秋冬野菜・草花の栽培 ○育林 1 樹木生育調査 2 キノコ栽培 ○林産加工 1 製造 ○農業クラブ活動 1 プロジェクト活動 2 意見発表				・栽培に必要な技術と作業内容の概要を学習する。 ・地域の森林・林業の実態を学習し、森林管理の重要性と望ましい森林の姿を考察する。 ・キノコの主な栽培方法として、原木栽培及び菌床栽培を学習する。 ・手押しかな盤を用いて、製材した面を平らに面削りする実習を行う。 ・栽培・管理をととしてプロジェクト活動を行う。 ・日頃の生活の中で関心を持った分野について自分の意見をまとめる。	実施なし
3 学 期	○園芸 1 圃場の土作り・整備 ○育林 1 機器の手入れ 2 キノコ栽培 ○林産加工 1 木材の工作 ○農業クラブ活動 1 プロジェクト活動				・農閑期における作業が次の管理の効率化に結び付くことを学習する。 ・チェーンソーのメンテナンス方法やロープワークについて学習する。 ・キノコの主な栽培方法として、原木栽培及び菌床栽培を学習する。 ・1・2学期に学習した製材及び加工の機械を活用し、木材工作を行う。 ・木工品の製作をととして、間伐材を有効利用することの重要性を学習する。 ・栽培・管理をととしてプロジェクト活動を行う。	実施なし

科目名	森林科学	単位数	2	学科・学年・学級	森林環境科 1年1組
学 習 の 到達目標	1 森林科学について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 2 森林科学に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 3 森林を科学的に捉えるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ保全、再生する場面で活用できる応用力を養う。			教科書・副教材等	森林科学（実教出版）
評 価					
観 点	評 価 規 準				方 法
知識・技術	・森林の構造や機能並びに保全技術に関するプロジェクト学習を通して、森林の取り扱い技術に必要な知識と技術を身に付ける。 ・森林生態系の構造の発達段階、森林生態系の構造と多面的機能の関係、森林の機能と目標林型、森林の施業・管理技術を理解する。				・定期考査 ・技術テスト
思考・判断・表現	・目標林型の設定とそれに適した施業・管理技術を選択し、行動できる力を身に付ける。 ・環境への配慮や法令順守など、職業人に求められる倫理観をもって、科学的な根拠などに基づいて創造的に解決する力を身に付ける。				・定期考査 ・レポート ・発表の内容や方法
主体的に学習に取り組む態度	・森林の取り扱い技術の向上を図るとともに、森林の多面的機能をより高度に発揮させることを目指し、その振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付ける。				・実習態度 ・ノート作成
学 習 計 画					
	学 習 内 容		学 習 の ね ら い		考 査
1 学 期	1 森林科学とプロジェクト学習 (1) 森林科学とプロジェクト学習の意義 (2) プロジェクト学習の進め方		・森林に関係する知識や技術を習得し、樹木の特性や森林の立地環境を踏まえて、森林の現状や課題について考え、活動をする。 ・森林生態系の構造やその発達過程、森林の施業管理技術、森林のもっている多面的機能についての知識や技術を身に付ける。		中間・期末
2 学 期	2 森林と樹木 (1) 森林の定義と分類 (2) 樹木の特性		・森林は、有機物の生産、蓄積、二酸化炭素の吸収や自然環境の維持など、地球環境を保全する上で大きな役割を果たしていることを理解する。 ・森林と樹木について学び、森林の定義やタイプ分け、樹木の形態や構造、生育特性について考え、森林や樹木の判別ができるようにする。		中間・期末
3 学 期	3 森林の立地環境		・気候帯や地域によって、異なった植物群系の分布がみられることを理解する。 ・日本の気象因子について、特に植生に大きく影響を与えている環境条件である気温や降水量などについて考える。 ・材木の生育に最も影響を与える土壌因子について考え、森林生態系における物質循環の要の場であることを理解する。		学年末

科目名	総合実習	単位数	3	学科・学年・学級	森林環境科 2年1組
学 習 の 到達目標	1 農林業の各分野についての実験・実習など、実際の、体験的な学習を通して、総合的な技術を習得し、経営と管理についての理解を深める。 2 農林業の経営や管理の改善に必要な管理能力や企画力、コミュニケーション能力など、実践的な能力と態度を育てる。 3 農林業の各分野における総合的な実習を通して、地域農林業の実態を理解する。			教科書・副教材等	なし
評 価 規 準					
観 点	評 価 規 準				方 法
知識・技術	・農業生物や林産物の育成、生産物の有効利用など、農林業に関する基礎的な知識を身に付けている。 ・各専攻分野における技術が身に付いている。				・発表の内容や仕方 ・作業の精度 ・農業鑑定競技
思考・判断・表現	・農林業の特性と農林産物の栽培管理方法について多面的に考察し、栽培方法や加工技術などの基礎的な知識・技術を活用した課題解決に向けての実践的な能力が身に付いている。 ・プロジェクト活動の記録や考察が正確に表現できている。				・実習態度 ・実習記録簿
主体的に学習に取り組む態度	・農作物や林産物の育成から加工品の開発など、農林業を体系的に捉え、意欲的に取り組む態度を身に付けている。 ・班員と協力して作業を行うことができる。				・実習態度 ・プロジェクト活動
学 習 計 画					
	学 習 内 容		学 習 の ね ら い		考
1 学 期	○園芸 1 野菜、草花の管理 2 収穫・調整・販売 ○育林 1 育苗 2 保育管理 ○林産加工 1 製材の実習Ⅰ ○農業クラブ活動 1 プロジェクト活動 2 意見発表 3 農業鑑定競技		・野菜、草花栽培に必要な作業内容の概要を学ぶ。 ・ヒノキ苗の育苗に必要な床がえ作業を行い、その目的と方法について学習する。 ・除草作業の目的を理解し、雑草との競合を避けることの重要性を学習する。 ・下刈り作業を実施し、並行して行うつる切りの目的を理解する。 ・板材の製材について、基本的な技術を習得する。 ・桁目・板目の特徴について学習する。 ・角材の製材について、基本的な技術を習得する。 ・木材の性質を学び、有効な木材利用の基礎知識を学習する。 ・農業鑑定競技実施基準の中から、林業に関する実物鑑定を行う。 ・栽培・管理をととしてプロジェクト活動を行う。 ・日頃の生活の中で関心を持った分野について自分の意見をまとめる。		実施なし
2 学 期	○園芸 1 野菜、草花の管理 ○育林 1 保育管理 2 キノコ栽培 ○林産加工 1 製材の実習Ⅱ ○農業クラブ活動 1 プロジェクト活動 2 意見発表		・野菜、草花栽培に必要な作業名と作業内容の概要を学習する。 ・次年度の採穂と採穂圃の管理の関わりについて理解する。 ・はしご及び木登り器を用いた枝打ちを実施し、枝打ちに関する知識・技術を身に付ける。 ・キノコの主な栽培方法として、原木栽培及び菌床栽培を学習する。 ・剥皮など、特殊な木材加工を体験し、多種多様な木材加工技術と知識を学習する。 ・実際に木材を加工しながら、木材の性質に関する知識や加工技術を身に付ける。 ・栽培・管理をととしてプロジェクト活動を行う。 ・日頃の生活の中で関心を持った分野について自分の意見をまとめる。		実施なし
3 学 期	○園芸 1 圃場の整備 2 播種及び育苗管理 ○育林 1 機器の手入れ 2 温室管理 ○林産加工 1 キノコの人工栽培 ○農業クラブ活動 1 プロジェクト活動		・圃場の整備を行い、作業の効率化の大切さを学ぶ。 ・夏野菜の苗の育て方について学習する。 ・チェーンソーの手入れ方法について学習する。 ・さし木床の管理を行い、育苗に必要な知識を身に付ける。 ・木材加工で発生するおがくずでのキノコ生産等、栽培をととして資源の再利用について学習する。 ・栽培・管理をととしてプロジェクト活動を行う。		実施なし

科目名	農業と情報	単位数	2	学科・学年・学級	森林環境科 2年1組（選択）	
学 習 の 到達目標	1 社会における情報化の進展、及び通信技術の向上に伴う新たな産業を知ると共に、その仕組みと利用・活用方法について理解する。 2 パソコンにおいて、代表的なソフトウェアの基礎から応用までを学習し、農業に関する各分野でデータを分析・処理し、活用する能力を養う。			教科書・副教材等	農業と情報（実教出版）	
評 価						
観 点		評 価 規 準			方 法	
知識・技術		・ 農業に関わる情報関連用語を理解できる。 ・ ハードウェア、ソフトウェアの操作技術がある。			・ 課題の内容 ・ 定期考査	
思考・判断・表現		・ 農業情報の活用について適切な手法を用いることができる思考力および判断力を身に付けている。 ・ データの特徴を生かした農業情報の計画が立てられる。			・ 学習の記録 ・ 定期考査	
主体的に学習に取り組む態度		・ 農業に関わる情報機器およびソフトウェアに対して興味、関心がある。 ・ 農林業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む意欲を身に付けている			・ 学習用具の準備 ・ 学習態度	
学 習 計 画						
	学 習 内 容		学 習 の ね ら い			考
1 学 期	1 私たちの生活と農業の情報化 2 社会を支えるコンピュータ 3 コミュニケーションと情報デザイン （1）数値の取り扱い		・ 情報とはなにかを理解し、私たちの生活と情報のかかわりと、情報を活用した農業について学ぶ。 ・ コンピュータのしくみ、コンピュータで取り扱う情報の種類と表現、情報通信ネットワークとインターネットのしくみ、情報のセキュリティ管理、などを理解する。 ・ 数値の取り扱いについて基本的な事項について理解する。			期 末
2 学 期	3 コミュニケーションと情報デザイン （1）数値の取り扱い （2）情報表現のためのソフトウェア （3）文書の作成と表現		・ 数値の取り扱いについて基本的な事項について理解する。 ・ 情報を活用するソフトウェアについて理解する。 ・ 文章作成ソフトウェアを利用して文書を作成できる。			期 末
3 学 期	3 コミュニケーションと情報デザイン （4）データの集計と視覚化 （5）プレゼンテーション		・ 表計算ソフトのデータ入力、作表、グラフの作成という基本操作の復習と、応用的な関数について学ぶ。 ・ 文字、画像、音声などの情報を伝達する手段の一つとしてプレゼンテーションソフトウェアの使いかたについて学ぶ。			学 年 末
【技術審査の成果の単位認定】 ・ 在学中に「全国商業高等学校協会主催情報ビジネス検定1級」または「全国商業高等学校協会主催情報処理検定1級（ビジネス部門）」を取得した場合は、申請すると技術審査の成果の単位認定が行われ、「農業情報処理」の単位数に2単位を加えることができる。						

科目名	森林科学	単位数	2	学科・学年・学級	森林環境科 2年1組	
学 習 の 到達目標	1 森林の仕組みと機能を知り、地域ごとの自然環境に適した管理の知識を学ぶ。 2 森林生態系と材木の生育特性を理解するとともに、森林を統合的に利用できる力を身に付ける。 3 森林を保全、再生する場面で活用できる応用力を養う。			教科書・副教材等	森林科学（実教出版）	
評 価 規 準						
観 点	評 価 規 準				方 法	
知識・技術	・森林の構造や機能並びに保全技術に関するプロジェクト学習を通して、森林の取り扱い技術に必要な知識と技術を身に付ける。 ・森林生態系の構造の発達段階、森林生態系の構造と多面的機能の関係、森林の機能と目標林型、森林の施業・管理技術を理解する。				・定期考査 ・技術テスト	
思考・判断・表現	・目標林型の設定とそれに適した施業・管理技術を選択し、行動できる力を身に付ける。 ・環境への配慮や法令順守など、職業人に求められる倫理観をもって、科学的な根拠などに基づいて創造的に解決する力を身に付ける。				・定期考査 ・レポート ・発表の内容や方法	
主体的に学習に取り組む態度	・森林の取り扱い技術の向上を図るとともに、森林の多面的機能をより高度に発揮させることを目指し、その振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付ける。				・実習態度 ・ノート作成	
学 習 計 画						
	学 習 内 容	学 習 の ね ら い				考査
1 学 期	1 森林生態系の構造と多面的機能 (1)森林生態系の構造 (2)森林植生遷移と森林の発達段階 (3)森林の多面的機能	・生態系について理解した上で、森林生態系の特徴について考える。 ・長い年月をかけて、種々の草本類や木本類が侵入しながら群落が変化し、また、それとともに動物群集も変化していくことを理解する。 ・森林は、有機物の生産、蓄積、二酸化炭素の吸収や自然環境の維持など、地球環境を保全する上で大きな役割を果たしていることを理解する。				中間・期末
2 学 期	2 森林の機能と目標林型 (1)生態系サービスと森林の機能の発揮 (2)目標林型とゾーニング	・森林の適正で持続可能な管理方法を考える基本として、生態系サービスの考え方と森林の多面的機能との関係を整理し、その機能を発揮させるための保安林や保護林の制度について学ぶ。 ・豊かな森林を育成し、森林生態系の多面的機能を持続的に得るための目標林型やゾーニングについて考える。				中間・期末
3 学 期	3 森林の施業技術や管理技術 (1)生産林の施業技術 (2)環境林の管理技術 (3)森林の健全性を維持するための管理技術	・生産林を維持するための施業体系を学び、植栽、下刈り、間伐などの技術を身に付ける。 ・木材生産を更新するための初期保育技術、樹冠管理技術の必要性について理解する。 ・環境林を管理するための誘導法について学ぶ。 ・世界で起こっている森林破壊について調べ、その背景について考える。 ・日本での森林被害の事例をもとに、日常の森林管理技術や病害虫への対策、害獣や気象被害への対応策について考える。				中間・期末

科目名	林産物利用	単位数	2	学科・学年・学級	森林環境科 2年1組	
学 習 の 到達目標	1 林産物の加工、利用に必要な知識と技術を習得し、循環資源としての木材の在り方を考える。 2 林産物の特性を理解するとともに、林産物の多様な利用を図る能力と態度を育てる。			教科書 ・ 副教材 等	林産物利用（実教出版）	
評 価						
観 点		評 価 規 準			方 法	
知識・技術		・木材の用途と特性の関係について理解している。 ・工作機械を安全に使用方法を理解している。 ・正確な板取が行える。 ・木材を正確に切断することができる。 ・部品を正確に接合することができる。			・定期考査 ・実習中の観察 ・実技試験 ・作品の評価	
思考・判断・表現		・機器を正しく取り扱い、部品を正確に加工や組み立てすることができる。 ・自分や他人に対して安全に実習を行うことができる。			・実習中の観察	
主体的に学習に取り組む態度		・林産製造の実習に対して、積極的に取り組むことができる。 ・他と協力して、安全かつ確実に作業を行うことができる。			・出席状況 ・実習への取り組みと姿勢 ・ノートの点検	
学 習 計 画						
	学 習 内 容		学 習 の ね ら い			考 査
1 学 期	第1章 林産物利用の意義と動向 (1) 森林・林業と林産物利用 (2) 林産工業の現状と動向		・森林や林業の現状を確認することにより、木材消費を伸ばすために木材加工の技術が必要であることを理解する。			中間・ 期末
	第2章 木材の性質と用途 (1) 木材の用途 (2) 木材の構造と性質		・木材を利用した加工品を紹介し、その特性を生かすために必要な木材の性質を学び、有効な木材利用に関する基礎知識を身に付ける。			
2 学 期	(3) 木材の加工 ア 木工器具の取り扱い ・さしがね ・ノコ ・ノミ イ 木工機器の取り扱い ・ルータ ・角のみ ・自動カンナ盤		・木材を加工しながら、工作機器の使用法や木材の加工技術・加工方法について学習する。 ・正確に採寸・切断を行う技術を身に付ける。 ・採寸通りに木材を加工する技術を身に付ける。			中間・ 期末
	(4) 作品のデザイン・設計 ア 作品のデザイン イ 設計図の作成 ウ 木取り図の作成		・様々な木工作品を鑑賞し、オリジナルの作品を作成するための準備を行う。 ・デザイン画の作成の仕方について学習する。 ・設計図の書き方について学習する。 ・設計図をもとに、木取り計画を学習する。 ・作品の塗装効果について学習する。			
3 学 期	第5章 特用林産物の生産と加工 (1) キノコの実産と加工 ア キノコの実態 イ 主なキノコの実培 ウ キノコの実工		・キノコ栽培を通してキノコの実特性に実じた培地の実作成や栽培管理について学習する。 ・適切な培地の実作成、植菌を行う技術を身に付ける。 ・加工を通して、成分の実変化や食感の実違いについて学習する。			学年 末
【技術審査の実果の実単位認定】 ・在学中に「危険物取扱者（乙種1類～6類）」を取得した場合は、申請すると技術審査の実果の実単位認定が行われ、「林産物利用」の実単位数に各類1単位を加えることができる。						

科目名	生物活用	単位数	2	学科・学年・学級	森林環境科 2年1組	
学 習 の 到達目標	1 緑のある環境・園芸や社会動物の特性と効用について理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 2 園芸作物の栽培と活用に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する能力を養う。			教科書 ・ 副教材 等	生物活用 (実教出版)	
評 価						
観 点	評 価 規 準				方 法	
知識・技術	・園芸作物に関する基礎的な知識を身に付け、栽培に生かすことができる。 ・草花の特徴を生かして、フラワーデザインの基本技術を身に付けることができる。				・実習態度 ・レポート ・ノート ・定期考査	
思考・判断・表現	・栽培プロジェクトを通して、計画、実施、評価、反省ができています。 ・野菜栽培を通して、地域の自然環境と地域農業について考えることができる。				・レポート ・プレゼン ・定期考査	
主体的に学習に取り組む態度	・園芸作物に興味・関心を持ち、学習活動への積極的な参加がなされている。 ・実習内容や生育調査の記録を正確にできる。				・実習態度 ・発表の内容や仕方 ・栽培記録プリント	
学 習 計 画						
	学 習 内 容		学 習 の ね ら い			考査
1 学 期	1 草花の栽培と活用 (1) 草花の種類と特性 (2) 園芸デザイン (3) フラワーデザイン 2 野菜・ハーブの栽培と活用 (1) 夏野菜栽培プロジェクト ア 課題設定・栽培計画 イ 実施・評価・反省		・園芸作物の活用が果たしている社会的な役割を理解し、生物の活用に興味と関心を持てるよう学習する。 ・夏野菜を栽培し、園芸活動に必要な知識と技術を身に付ける。 ・1年時の経験をもとに、各班で栽培計画を立て、栽培プロジェクトを実施する。 ・フラワーデザインの基本技術を身に付ける。			中間・期末
2 学 期	(2) 秋冬野菜栽培プロジェクト ア 課題設定・栽培計画 イ 実施・評価・反省 (3) 野菜の加工・利用		・秋冬野菜を栽培し、園芸活動に必要な知識と技術を身に付ける。 ・各班で栽培計画とその活用方法を立て、栽培プロジェクトを実施する。 ・班別に生育の記録をまとめ、各班で行ったプロジェクトの結果から、良かった点、反省点を洗い出し、班同士で相互評価を行う。 ・野菜の貯蔵・加工方法を理解し、その活用技術を身に付ける。			中間・期末
3 学 期	3 動物の飼育と活用 (1) イヌの飼育と活用 (2) ネコの飼育と活用 4 生物を活用した療法 (1) 園芸療法 (2) 動物介在療法		・社会動物の飼育と活用について理解するとともに動物とのふれあいや飼育がもたらす心理的効果や身体的効果について考える。 ・生物を活用した療法について学び、生徒自らが行える範囲の活動と専門的な療法との違いを理解できるようにする。			学年末

科目名	課題研究	単位数	3	学科・学年・学級	森林環境科 3年1組
学 習 の 到達目標	1 農業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、相互に関連付けられた技術を身に付けるようにする。 2 農業に関する課題を発見し、農業や関連産業に携わる者として解決策を探求し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 3 課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。			教科書・副教材等	なし
評 価					
観 点	評 価 規 準				方 法
知識・技術	・農林業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、相互に関連付けられた技術を身に付けている。 ・課題を自分で解決し、助言を課題解決に生かすことができる。				・授業中の態度・発表 ・記録簿のまとめ方 ・作品
思考・判断・表現	・農林業に関する課題を発見し、その解決策を探求することができる。 ・科学的な根拠に基づいて創造的に解決することができる。				・計画性 ・プレゼンのまとめ方 ・発表方法
主体的に学習に取り組む態度	・課題を解決する力の向上を目指して自ら学ぼうとしている。 ・農林業の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組んでいる。				・実習態度 ・発表態度
学 習 計 画					
	学 習 内 容		学 習 の ね ら い		考查
1 学 期	1 オリエンテーション 2 テーマ設定 3 プロジェクト学習の年間計画 4 学習活動Ⅰ （1）各部門での学習 5 1学期のまとめ		・課題研究の学習内容や方法について理解する。 ・プロジェクト学習のテーマについて考える。 ・プロジェクト学習の年間計画を立案する。 ・自ら設定したテーマに沿って計画的に学習を進める。 ・1学期の学習内容をまとめ、自主的に学習し、それを継続する姿勢の大切さを確認する。		実施なし
2 学 期	6 学習活動Ⅱ （1）プロジェクト学習 （2）データの記録・整理 7 2学期のまとめ		・自ら設定したテーマに沿って計画的に学習を進める。 ・学習活動のまとめを行い、研究成果を発表できるようにまとめる。 ・比較調査や1、2学期のまとめを行い、研究成果をレポートにまとめる方法を理解する。 ・他の教科、科目で学習した知識・技術に関連づけ、学習の深化を図る。		実施なし
3 学 期	8 発表準備 9 課題研究発表会		・資料のまとめ方や発表内容の構成を考える。 ・視聴覚機器の操作方法を理解させ、発表することにより学習内容の定着を図る。 ・課題解決により、達成感と自信を持ち、自己実現を図る能力と態度を育てる。		実施なし

科目名	総合実習	単位数	3	学科・学年・学級	森林環境科 3年1組	
学 習 の 到達目標	1 農林業の各分野についての実験・実習など、実際の、体験的な学習を通して、総合的な技術を習得し、経営と管理についての理解を深める。 2 農林業の経営や管理の改善に必要な管理能力や企画力、コミュニケーション能力など、実践的な能力と態度を育てる。 3 農林業の各分野における総合的な実習を通して、地域農林業の実態を理解する。			教科書 ・ 副教材 等	なし	
評 価 規 準						
観 点		評 価 規 準			方 法	
知識・技術		・ 農業生物や林産物の育成、生産物の有効利用など、農林業に関する基礎的な知識を身に付けている。 ・ 各専攻分野における技術が身に付いている。			・ 発表の内容や仕方 ・ 作業の精度 ・ 農業鑑定競技	
思考・判断・表現		・ 農林業の特性と農林産物の栽培管理方法について多面的に考察し、栽培方法や加工技術などの基礎的な知識・技術を活用した課題解決に向けての実践的な能力が身に付いている。 ・ プロジェクト活動の記録や考察が正確に表現できている。			・ 実習態度 ・ 実習手帳 ・ 実習記録簿	
主体的に学習に取り組む態度		・ 農作物や林産物の育成から加工品の開発など、農林業を体系的に捉え、意欲的に取り組む態度を身に付けている。 ・ 班員と協力して作業を行うことができる。			・ 実習態度 ・ プロジェクト活動	
学 習 計 画						
	学 習 内 容		学 習 の ね ら い			考査
1 学 期	○園芸 1 野菜、草花の管理 2 収穫・調整・販売 ○育林 1 育苗 2 保育管理 ○林産加工 1 製材の実習Ⅰ ○農業クラブ活動 1 プロジェクト活動 2 意見発表 3 農業鑑定競技		・ 野菜、草花栽培に必要な作業内容の概要を学ぶ。 ・ ヒノキ苗の育苗に必要な床がえ作業を行い、その目的と方法について学習する。 ・ 除草作業の目的を理解し、雑草との競合を避けることの重要性を学習する。 ・ 下刈り作業を実施し、並行して行うつる切りの目的を理解する。 ・ 板材の製材について、基本的な技術を習得する。 ・ 柾目・板目の特徴について学習する。 ・ 角材の製材について、基本的な技術を習得する。 ・ 木材の性質を学び、有効な木材利用の基礎知識を学習する。 ・ 農業鑑定競技実施基準の中から、林業に関する実物鑑定を行う。 ・ 栽培・管理をととしてプロジェクト活動を行う。 ・ 日頃の生活の中で関心を持った分野について自分の意見をまとめる。			実施なし
2 学 期	○園芸 1 野菜、草花の管理 ○育林 1 保育管理 2 キノコ栽培 ○林産加工 1 製材の実習Ⅱ ○農業クラブ活動 1 プロジェクト活動 2 意見発表		・ 野菜、草花栽培に必要な作業名と作業内容の概要を学習する。 ・ 次年度の採穂と採穂園の管理の関わりについて理解する。 ・ はしご及び木登り器を用いた枝打ちを実施し、枝打ちに関する知識・技術を身に付ける。 ・ キノコの主な栽培方法として、原木栽培及び菌床栽培を学習する。 ・ 剥皮など、特殊な木材加工を体験し、多種多様な木材加工技術と知識を学習する。 ・ 実際に木材を加工しながら、木材の性質に関する知識や加工技術を身に付ける。 ・ 栽培・管理をととしてプロジェクト活動を行う。 ・ 日頃の生活の中で関心を持った分野について自分の意見をまとめる。			実施なし
3 学 期	○園芸 1 圃場の整備 2 播種及び育苗管理 ○育林 1 機器の手入れ 2 キノコ栽培 ○林産加工 1 製材の実習Ⅲ ○農業クラブ活動 1 プロジェクト活動		・ 圃場の整備を行い、作業の効率化の大切さを学ぶ。 ・ 夏野菜の苗の育て方について学習する。 ・ チェーンソーの手入れ方法について学習する。 ・ さし木床の管理を行い、育苗に必要な知識を身に付ける。 ・ 木材加工で発生するおがくず等でのキノコ生産、栽培をととして資源の再利用について学習する。 ・ 栽培・管理をととしてプロジェクト活動を行う。 ・ 実際に木材を加工しながら、木材の性質に関する知識や加工技術を身に付ける。			実施なし

科目名	農業と情報	単位数	2	学科・学年・学級	森林環境科 3年1組（選択）	
学 習 の 到達目標	1 社会における情報化の進展、及び通信技術の向上に伴う新たな産業を知ると共に、その仕組みと利用・活用方法について理解する。 2 パソコンにおいて、代表的なソフトウェアの基礎から応用までを学習し、農業に関する各分野でデータを分析・処理し、活用する能力を養う。			教科書・副教材等	農業と情報（実教出版）	
評 価						
観 点		評 価 規 準			方 法	
知識・技術		・農業に関わる情報関連用語を理解できる。 ・ハードウェア、ソフトウェアの操作技術がある。			・課題の内容 ・定期考査	
思考・判断・表現		・農業情報の活用について適切な手法を用いることができる思考力および判断力を身に付けている。 ・データの特徴を生かした農業情報の計画が立てられる。			・学習の記録 ・定期考査	
主体的に学習に取り組む態度		・農業に関わる情報機器およびソフトウェアに対して興味、関心がある。 ・農林業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む意欲を身に付けている			・学習用具の準備 ・学習態度	
学 習 計 画						
	学 習 内 容		学 習 の ね ら い			考査
1 学 期	1 私たちの生活と農業の情報化 （1）情報とメディア （2）情報社会とモラル （3）農業を支える情報 2 コミュニケーションと情報デザイン （1）情報表現のためのソフトウェア （2）文書の作成と表現		・情報とはなにかを理解し、私たちの生活と情報のかかわりと、情報を活用した農業について学ぶ。 ・情報化社会の光と影について考えるとともに、SNSの使い方や、個人情報の取り扱い、知的財産権の保護、モラルについて考える。 ・情報を活用するソフトウェアについて理解する。 ・文章作成ソフトウェアを利用して文書を作成できる。			期 末
2 学 期	3 コミュニケーションと情報デザイン （3）データの集計と視覚化 （4）プレゼンテーション		・表計算ソフトのデータ入力、作表、グラフの作成という基本操作の復習と、応用的な関数について学ぶ。 ・文字、画像、音声などの情報を伝達する手段の一つとしてプレゼンテーションソフトウェアの使いかたについて学ぶ			期 末
3 学 期	3 スマート農業への展望 （1）スマート農業のめざす将来 （2）リモートセンシングとGIS		・データの重要性や農業情報システムの役割について理解し、AIやロボットの農業への利用や可能性を考えることができる。 ・リモートセンシングと地理情報システムの概要について理解し、取得した情報を活用できる。			学 年 末
【技術審査の成果の単位認定】 ・在学中に「全国商業高等学校協会主催情報ビジネス検定1級」または「全国商業高等学校協会主催情報処理検定1級（ビジネス部門）」を取得した場合は、申請すると技術審査の成果の単位認定が行われ、「農業情報処理」の単位数に2単位を加えることができる。						

科目名	森林科学	単位数	2	学科・学年・学級	森林環境科 3年1組	
学 習 の 到達目標	1 森林科学について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 2 森林科学に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 3 森林を科学的に捉えるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ保全、再生する場面で活用できる応用力を養う。			教科書・副教材等	森林科学（実教出版）	
評 価						
観 点	評 価 規 準				方 法	
知識・技術	・森林の構造や機能並びに保全技術に関するプロジェクト学習を通して、森林の取り扱い技術に必要な知識と技術を身に付ける。 ・森林生態系の構造の発達段階、森林生態系の構造と多面的機能の関係、森林の機能と目標林型、森林の施業・管理技術を理解する。				・定期考査 ・技術テスト	
思考・判断・表現	・目標林型の設定とそれに適した施業・管理技術を選択し、行動できる力を身に付ける。 ・環境への配慮や法令順守など、職業人に求められる倫理観をもって、科学的な根拠などに基づいて創造的に解決する力を身に付ける。				・定期考査 ・レポート ・発表の内容や方法	
主体的に学習に取り組む態度	・森林の取り扱い技術の向上を図るとともに、森林の多面的機能をより高度に発揮させることを目指し、その振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付ける。				・実習態度 ・ノート作成	
学 習 計 画						
	学 習 内 容		学 習 の ね ら い			考査
1 学 期	1 木材の収穫 (1)作業システム (2)路網		・木材が生活になくてはならないものであることを理解し、加工性、耐久性に優れ、再生産が可能な資源であることを理解する。 ・森林資源の循環利用を確立し、林業の成長産業化と森林の適切な管理の実現に路網整備の重要性を認識する。			中間・期末
2 学 期	(3)伐採、造材、集材 (4)労働安全		・伐倒作業は危険を伴うため、安全を確保するとともに材の損傷をできるだけ少なく処理する技術を身に付ける。 ・造材や集材に使用する機械の種類や使用方法について学び、実践技術を身に付ける。 ・林業における労働災害は、他産業に比較して非常に多いことを自覚し、自ら安全対策を考えた行動ができるようにする。			中間・期末
3 学 期	2 森林の育成と活用の実践 (1)森林の育成と活用の実践 (2)従来の林業地の取組		・地域における森林の活用の実態を把握し、今後の森林の活用の在り方を考察する。 ・コンテナ苗の生産技術について実践的な研究方法について学ぶ。 ・これまでの日本の優れた育林技術を認識し、今後の日本の林業について考える。			実施なし

科目名	森林経営	単位数	2	学科・学年・学級	森林環境科 3年1組	
学 習 の 到達目標	1 持続可能な森林経営について理解を深め、森林の計画や管理の在り方に関する基礎的な知識と技術を習得する。 2 森林の測定・森林機能の評価や森林経営情報の活用などの実践的な能力を身に付ける。			教科書・副教材等	森林経営（文部科学省）	
評 価 規 準						
観 点		評 価 規 準			方 法	
知識・技術		・森林経営に関する、基本的な技術が身に付いている。 ・森林経営に関する知識を習得し、その技術を活かしていく方法を理解できている。			・課題の内容 ・定期考査	
思考・判断・表現		・安全面、環境面を考え、的確な判断を行いながら授業に参加している。 ・活動結果が正確にレポートに表現できている。			・学習の記録 ・定期考査	
主体的に学習に取り組む態度		・森林経営に興味・関心を持ち、積極的に学習活動へ参加している。 ・使用する道具等を安全に留意して適切に使うことができる。			・学習用具の準備 ・学習態度	
学 習 計 画						
	学 習 内 容		学 習 の ね ら い			考査
1 学 期	オリエンテーション 1 世界と日本の森林・林業 （1）世界の森林・林業 （2）日本の森林・林業 2 森林経営の目標と組織 （1）持続可能な森林経営 （2）森林経営の組織 （3）森林経営の計画		・森林経営の意義と役割、授業内容や学習方法について理解する。 ・地球的規模で森林・林業の現状を取り上げ、世界各国の森林・林業事情を踏まえつつ、日本の森林・林業の特徴と問題点を理解する。 ・持続可能な森林経営の考え方が登場した背景、概念の内容、特徴について学ぶ。 ・日本における森林経営を担う組織・団体や経営体について学ぶ。 ・長期的で多面的な視点に立った森林経営の計画の必要性和当面する課題について学ぶ。			期末
2 学 期	3 森林の測定と評価 （1）森林の測定 （2）森林の機能の評価 （3）リモートセンシングの利用 4 山地と農山村の保全 （1）山地の保全 （2）治山事業 （3）日本の農山村 5 森林経営の実践		・森林の大きさの調査、直径・樹高・材積等の測定方法について理解する。 ・森林の機能を調べるさまざまな方法を理解する。 ・林産物生産機能の評価、森林の公益的機能の評価方法について学ぶ。 ・空中写真・衛星リモートセンシングによる森林調査の方法について理解する。 ・地域の農山村の状況について理解する。			期末
3 学 期	6 まとめ		・主要な林産物の生産や地域特有な森林経営等に関する課題解決に向けて取り組む。			実施なし

科目名	測量	単位数	2	学科・学年・学級	森林環境科 3年1組（選択）	
学 習 の 到達目標	1 測量について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 2 測量に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 3 測量について国土保全や環境創造に応用できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。			教科書・副教材等	農業測量（実教出版）	
評 価						
観 点	評 価 規 準				方 法	
知識・技術	・測量に関するプロジェクト学習で課題を発見し調べることができる。 ・測量を農林業・農山村の発展や国土保全、地域の環境創造を図る事業に活用するための知識と技術を身に付けている。				・定期考査 ・ノート、ワークシート ・実技技術	
思考・判断・表現	・測量に関する課題を発見し、測量が果たす社会的な意義と役割を考えることができる。 ・環境への配慮や法令順守などの職業人としての倫理観をもって、科学的な根拠などに基づいて創造的に解決する力を養うことができる。				・定期考査 ・レポート ・活動中の観察	
主体的に学習に取り組む態度	・測量成果の活用が農林業及び農山村の発展や国土保全・環境創造につながるという社会的な役割を担っていることを理解している。 ・測量を通して、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養うことができる。				・実習態度 ・ノート・ワークシート	
学 習 計 画						
	学 習 内 容	学 習 の ね ら い				考査
1 学 期	1 測量とは	・測量の規模や測量法によるわけかたを理解する。 ・測量の目的や使用器械によるわけかたを理解する。 ・測量作業の手順について理解、目的にあった測量の計画ができるよう学ぶ。				期 末
	2 測量の意義と役割	・測量や地理空間情報の意味や特質を理解し、活用方法を考える。 ・情報通信ネットワーク社会の基盤としての測量の役割を理解し、多方面での利用を学ぶ。				
2 学 期	3 位置や高さの測量	・様々な測量方法の特徴や器械、器具の構造を理解する。 ・測量の原理や測定機器の操作、測定値の処理方法を学び、その活用を理解する。				期 末
	4 地理空間情報	・GISの概要を学び、リモートセンシングや写真測量について学ぶ。 ・リモートセンシングの原理や効果を学び、その活用方法を考える。				
3 学 期	5 測量の実践	・様々な測量法を組み合わせた地形測量を学び、地形図の作成とその利用について学ぶ。 ・持続可能な農林業や国土保全などの目的に応じた測量を、知識・技術を活用して、実践することができる。				実 施 な し

科目名	地域資源活用	単位数	2	学科・学年・学級	森林環境科 3年1組	
学 習 の 到達目標	1 地域資源の活用について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 2 地域資源の活用に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 3 地域資源の活用について新たな価値の創造に寄与できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。			教科書・副教材等	地域資源活用（実教出版）	
評 価						
観 点	評 価 規 準				方 法	
知識・技術	・地域資源の有用性について、農山村と都市の取組と課題を調べることができる。 ・農林業・農山村の実態や地域社会の在り方、そこで新たな仕事を産み出す企業活動などに関連する知識と技術を身に付ける。				・実技技術 ・定期考査	
思考・判断・表現	・農林業・農山村の特色を活かした生活体験を提供する活動などを体験し、地域資源を活用した地域の振興について考えることができる。 ・環境への配慮や法令順守などの職業人としての倫理観をもって、科学的な根拠などに基づいて創造的に解決する力を養うことができる。				・レポート ・定期考査	
主体的に学習に取り組む態度	・地域振興の担い手として、地域と連携し、地域資源を活用したグリーンツーリズムや商品開発を行うことができる。 ・実戦経験を通して、新たな価値の創造などに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。				・実習態度 ・発表態度 ・ノート作成	
学 習 計 画						
	学 習 内 容		学 習 の ね ら い			考査
1 学 期	1 地域資源活用とは 2 農山村社会の変化と地域振興	・時代とともに移りかわる農山村の意義と役割を学ぶ。 ・農山村振興における地域資源活用の意義について学び、地域資源の特性と活用方法を考える。 ・農山村における自然と共生した農的暮らしについて考える。 ・国や地方自治体で行っている地域活性化の施策・取組や異業種間連携、農福連携の基本的な考え方と取り組み方について学ぶ。			期末	
2 学 期	3 地域資源活用の意義と役割 4 地域資源の価値と活用	・農林業や農山村の特徴とその魅力について理解し、活用方法を考える。 ・都市における農的環境の維持、地域資源活用推進の方策について理解する。 ・歴史や資源を生かした地域づくりの考え方を理解し、その重要性を学ぶ。 ・都市と農山村の共生・対流について理解する。			期末	
3 学 期	5 地域と連携した活動 6 地域資源活用の実践	・地域資源のマーケティングとブランド化の特徴を知り、その進め方を理解する。 ・農業生産の現場にユニバーサルデザインを導入する意義を考える。 ・自分の暮らす地域の資源と地域のかかえている課題を理解し、知識や技術を活用して、プログラムを実践する。			実施なし	

科目名	木材デザイン	単位数	2	学科・学年・学級	森林環境科 3年1組（選択）
学 習 の 到達目標	1 日頃の生活に木材を取り入れるために木材の特性を理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 2 目的にあったデザインのために、安全性や配色などを考慮し、美しい作品を創造する力を養う。 3 美しさと機能を兼ね備えたデザインの創造に寄与できるよう自ら学び、安全に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。			教科書・副教材等	・暮らしの図鑑 木のもの 楽しむ工夫×木工作家・ブランド27×基礎知識（翔泳社）
評 価					
観 点	評 価 規 準				方 法
知識・技術	・木材の特性を理解し、木材加工に取り組むことができる。 ・工作機械を安全に使用方法を身に付け、正確に切断、接合することができる。 ・イメージに合った作品をバランスよく製作することができる。				・定期考査 ・実習中の観察 ・実技試験 ・作品評価
思考・判断・表現	・目的や用途に合った完成像をイメージしながら計画を立てることができる。 ・安全に配慮して実習を行うことができる。 ・美しく色合いを表現することができる。				・定期考査 ・実習中の観察
主体的に学習に取り組む態度	・インテリアへの関心を深め、美しさと機能性を兼ね備えた木材加工を行うことができる。 ・作品制作を通して、新たな木材加工の創造などに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。				・出席状況 ・実習態度 ・ノート、ワークシート作成
学 習 計 画					
	学 習 内 容		学 習 の ね ら い		考査
1 学 期	1 木材の使い方 (1) 食べる・敷く・使う (2) 整える・飾る・身に付ける (3) 住む・香る (4) 触れる・遊ぶ・DIY		・生活と木材との関わりについて学習する。 ・日常生活での木材の使用用途について学習する。		期 末
2 学 期	2 木にまつわる基礎知識 (1) 木工の基本 3 N C ルータによるプログラム (1) プログラムについて		・樹種の概要について学習する。 ・木材の特徴や加工道具について学習する。 ・木材の特性を生かす塗装について学習する。 ・N C ルータのプログラムについて理解する。		期 末
3 学 期	(2) 文字デザインの作成 (3) 操作		・デザインをプログラム化し、機械への入力方法を理解する。 ・N C ルータの操作方法を身に付ける。		実 施 な し

科目名	森林野外活動	単位数	2	学科・学年・学級	森林環境科 3年1組	
学 習 の 到達目標	1 森林の多目的機能や総合的な利用を体験的に学習することにより、森林や環境に対する興味・関心を高める。 2 登山に必要な基礎的な知識・技術を学び、自ら考え行動する力を育成する。			教科書・副教材等	・石鎚山系 学びのフィールドミュージアム (愛媛新聞社) ・ゆるっと始めるキャンプ読本 (KADOKAWA)	
評 価						
観 点	評 価 規 準				方 法	
知識・技術	・登山・野外活動に関する知識を習得し、その知識を活かしていく方法を理解している。 ・登山・野外活動に関する、基本的な技術が身に付いている。 ・森林の多面的機能を理解し、活用する方法を考えることができる。				・定期考査 ・ノート、ワークシート ・レポート	
思考・判断・表現	・登山・野外活動の知識・技術をもとに、実践的な能力が身に付いている。 ・安全面も考慮し、的確な判断で活動できている。 ・活動結果が正確にレポートに表現できている。				・レポート ・定期考査 ・活動中の観察	
主体的に学習に取り組む態度	・野外活動に興味・関心を持ち、他者と協働的にかつ主体的に取り組む態度を養えている。 ・地域の環境を活用した登山、野外活動を行うことができる。				・活動への参加の仕方や態度 ・レポート	
学 習 計 画						
	学 習 内 容	学 習 の ね ら い				考査
1 学 期	1 キャンプ基礎 (1) キャンプ道具の使用方 法・選び方 (2) キャンプ道具メン テナンス (3) 料理方法 2 登山の基礎 (1) 地図の見方 (2) 服装・荷物の詰め方 (3) 山の歩き方 3 安全教育	・森林観察・野外活動での注意点や事故・怪我への対処方法について理解する。 ・山歩きに必要な不可欠な地図の見方について学ぶ。 ・疲れにくい歩き方や、体力の配分について学習する。 ・水分補給の必要性や必要に応じた水の取り方について学ぶ。また、即効性のある糖類を食べることの必要性和食べるタイミングについて学ぶ。 ・ごみ拾いを行いながら登山をし、マナーを身に付けたり、自然の大切さを体感する。 ・山間部等で遭遇する危険生物について学ぶ。				期 末
2 学 期	4 森林動物の観察	・森林内の動物の生き方と特徴を学びながら自然保護のあり方についても考える。 ・森林に生息する動物の生態、分類、地質など森林に関する様々な知識を、多角的・総合的に身に付ける。				期 末
3 学 期	5 レポートのまとめ	・1年間の活動レポートをまとめる。				実 施 な し